

(59)

氏名(生年月日)	オ ^{ガワ} ^{マサ} ^ミ 小 川 雅 美
本 籍	
学 位 の 種 類	博士 (医学)
学位授与の番号	乙第1513号
学位授与の日付	平成6年12月16日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当 (博士の学位論文提出者)
学位論文題目	1. PBI (Parental Bonding Instrument) 日本版の信頼性, 妥当性に関する研究 2. 不安神経症患者と両親の養育態度の関連
論文審査委員	(主査) 教授 田村 敦子 (副査) 教授 大澤真木子, 新田 澄郎

論 文 内 容 の 要 旨

〔目的〕

PBI (parental bonding instrument) は、子供からみた親の養育態度の自覚的評価スケールであり、養護因子と過保護因子の2因子を測定するものである。欧米ではその信頼性、妥当性が確認され、臨床研究に使用されている。論文1では我国でもPBIが使用可能かどうか、その信頼性と妥当性を検討した。論文2で、実際にPBIを用いて、不安神経症患者と健常対象者の差異の統計的研究を行い、不安神経症の発症に両親の養育態度が及ぼす影響について検討した。

〔対象および方法〕

論文1ではPBIを日本語に翻訳し、高校生87名(男50名, 女37名), 女子看護短大生136名の計223名(平均年齢18.7歳)を対象に実施した。信頼性については内部一貫性, 再現性の観点から, 妥当性については内容妥当性, 並存的妥当性, 概念構成妥当性の観点から統計的に検討した。論文2では、平成4年1~12月までの1年間に多摩中央病院精神科に通院中の25歳以下の不安神経症患者26名を対象にPBIを施行し、得られたPBIスコアを論文1の健常対象者のものと統計的に比較検討した。すなわち母親の養護因子(M-CA), 過保護因子(M-OP), 父親の養護因子(F-CA), 過保護因子(F-OP)の得点について、患者群と論文1の健常対象者の間の母平均値の差の検定を行った。

〔結果〕

論文1では、上記の統計的分析の結果、PBI日本版

も原本と劣らぬ信頼性, 妥当性を有していることが確認され、我国でも使用可能であると判断された。論文2では、F-OPを除き、M-CA, M-OP, F-CAで危険率5%以下の有意差で相違がみられた。つまり不安神経症患者は健常対象者に比較して、両親の養護因子が低かったと自覚しており、母親の過保護因子が高かったと自覚しているという結果が得られた。

〔考察〕

欧米では抑うつ神経症, 不安神経症などの神経症患者は健常者に比べ、両親を低養護, 高過保護と判定する傾向が指摘されている。論文2において実際の症例での検討を行ったところ、我国においても不安神経症の発症に両親の養育態度の問題が大きく関わっていることが確認され、今回の結果はそれを裏付けるものと考えられた。しかし質問紙法によるテスト結果の解釈には慎重を要するので、今後も不安神経症の発症と親の養育態度の関連については、症例を重ね精密な統計的検討を続ける必要がある。

〔結論〕

論文1においてPBIの日本版の信頼性と妥当性を統計的に確認した。論文2において不安神経症の患者は両親を低養護, 高過保護と自覚しているという調査結果から、不安神経症の発症には両親の養育態度も関係することが示唆された。

論文審査の要旨

欧米で臨床研究に使用されている PBI (parental bonding instrument) は、子供からみた親の養育態度の自覚的評価スケールで、養護因子と過保護因子の 2 因子を測定するものである。

論文 1 では、PBI を日本語に翻訳し、健康人対象者 223 名 (平均年齢 18.7 歳) に実施し、信頼性 (内部一貫性、再現性) と、妥当性 (内部、並存性、概念構成) を統計的に確認した。論文 2 では、実際に PBI を用いて不安神経症者と健常対象者の差異の統計的研究を行ったところ、不安神経症の患者は、両親を低養護、高過保護と自覚しているとの結果が得られた。不安神経症の発症には、両親の養育態度も関係することを示唆した臨床、治療上、価値ある論文である。

主論文公表誌

1. PBI (Parental Bonding Instrument) 日本版の信頼性、妥当性に関する研究
精神科治療学 第 6 巻 第 10 号 1193-1201 頁
(平成 3 年 10 月発行)
2. 不安神経症患者と両親の養育態度の関連
東京女子医科大学雑誌 第 64 巻 第 5 号
418-423 頁 (平成 6 年 5 月発行) 小川雅美

副論文公表誌

- 1) 「舌がたり」のみられた人工透析患者 2 例。臨精医 20(6) : 771-778 (1991) 堀川直史, 小川雅美, 山崎友子, 加茂登志子, 永田俊彦
- 2) 人工透析と精神障害—その現代的問題—。精神科治療 5(4) : 505-514 (1990) 堀川直史, 小川

雅美, 山崎友子, 永田俊彦

- 3) 腎不全・人工透析患者への向精神薬療法。臨精医 20(3) : 265-273 (1991) 堀川直史, 山崎友子, 小川雅美, 松田 治, 山田純生, 永田俊彦
- 4) うつ病と神経症症状。精神科治療 5(4) : 523-531 (1990) 堀川直史, 山崎友子, 小川雅美, 永田俊彦
- 5) 残遺状態の見られた躁うつ病の 1 例。臨精医 18(5) : 673-679 (1989) 堀川直史, 坂元 薫, 山崎友子, 小川雅美, 永田俊彦
- 6) C 型肝炎を合併した精神分裂病患者におけるインターフェロン療法—自験例を通して—。臨精医 22(10) : 1469-1475 (1993) 小川雅美, 山寺博史, 黒田 肇